http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.216　03/06/07

引退の日

２日の日曜日は中間考査の前日であったが、女子バスケ部の応援に出かけてきた。夏のインターハイ予選で、３年生にとっては最後の大会である。１回戦から勝ち上がり、２回戦も快勝で今回が３回戦。しかも、この日はダブルヘッダーで、この試合に勝つと、もう一試合が予定されている。考査前日とはいえ、大事な試合である。

すべり出しは一進一退の展開で、相手がスリーポイントを入れると日比谷も入れかえし、相手がミドルを決めれば日比谷もカットインを決めかえす…といった感じである。相手と競り合いながら臆することなく自分たちのプレーができるというのは、なかなか立派なことであり、１年生の頃の姿を思い浮かべるにつけ、しっかりと成長したことが実感される。第２ピリオドに入ってもスリーポイントがよく決まり、３～５点差をキープしながら逆転のチャンスをねらっているといった感じである。

ところが、ハーフタイムをはさんだ後半第３ピリオドくらいから、どうも身体の切れが悪くなり、足が動かなくなってきた。さすがに中間考査の前日ということが影響しているのだろうか。相手のスピードが衰えないからディフェンスが遅れ気味になる、ファールが増える、おまけに３ポイントが入らなくなってくる…。ミスやバイオレーションも出て、15点差くらいになってしまった。

最終第４ピリオド、点差が縮まらないまま時間が過ぎていく。それでも●●監督の叱咤激励のもと、最後の力をふりしぼって、点差を広げられないように走り続ける。

ラスト３分。最後のメンバーチェンジ。３年生の部員は５名いるが、センターは２年生のプレーヤーが試合開始から出ていて、３年生４名＋２年生１名という布陣で試合に臨んできたが、ここで監督はその２年生センターを下げて、フォワードの３年生をコートに入れた。チームバランスとしては、センタープレーヤーがいた方がいいのだが、３年間ともに部活を頑張ってきた５人で、高校最後の３分間を戦わせようと考えたのであろう。

＊

『スラムダンク』で私が最も一番好きなシーンは、陵南との試合で、最後にメガネ君がスリーポイントを決めるシーンである。その瞬間、陵南の監督が「あいつも３年間がんばってきた男なんだ」とうなだれる。これこそが高校の部活だろうと私は思う。

＊

試合は得点差の縮まらないままゲームセット。３年生は引退である。もちろん負け試合だから、スッキリというわけにはいかないだろう。しかし、それぞれに持ち味を出した、見応えのあるイイ試合だったと思う。

何ごとにも終わりの瞬間はやってくる。それは仕方ないことである。だからこそ、その瞬間を後悔することなく迎えられるように努力するのである。部活をやっている諸君、いつかやってくるその日を悔いなく迎えられるように、一日一日の練習を大切にしていこう。